

問題一

- 問い一 A 秘匿 B 誇張 C 順応 D 検閲 E 罵倒

問い二 不可視の読み手を想定し、望ましいと思われる自分を綴ること。(二九字)

問い三 読者が体現する規範に適う自己を何度も日記に綴るうちにその規範が内面化されるから。(四〇字)

問い四 日記を綴ることの内面化された規範でも抑制できない、生々しい感情を書きたいという葛藤が記されている点。(五〇字)

問題二

問い一 私たちの祖先は、権力で抑圧する者のせいで天から与えられた権利を実際に行使することができなかったのである。

問い二 物事の発見や実行にかかわらず、物事が実際に存在するかどうかということ。(三五字)

問い三 権利は天から賦与されたものであるので、権利は権力に由来し天に由来しないと主張は誤りであるから。(四九字)

問題三

SNSを利用して誰もが送受信を行い、情報が激増した現代において、知的な人間が一方的に情報を送った時代のメディアリテラシー教育だけでよいとは思えない。それは情報の真偽を判定し、問題を早期に解決できる能力を求めるが、問題自体を単純化する危うさがあり、そもそも誰にとつても情報の真偽を見きわめること自体が困難である。とすれば情報の不確実性に耐えて考え続け、不用意な発信をしない力こそが人間として必要なのだ。(二〇〇字)